

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <https://zensuiren.org/>
お問い合わせ info@zensuiren.org
編集・発行 椿本和幸



治水事業促進 全国大会

開催日

11月6日(水) 14時～

場所

シェーンバッハ・サポー
(砂防会館別館)

主催者

全国治水期成同盟会連合会

◆特別講演◆ 13時開演

「(仮題) 災害の時代にどう備えるか？」

講演者：東京大学生産技術研究所教授
社会科学研究所特任教授
加藤 孝明

【令和元年9月の前線に伴う大雨】 六角川(佐賀県杵島郡大町町福母地区)



● 目次

令和元年度 中国地方治水大会	2
令和元年度国土交通省地震防災訓練の実施について	8
令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞	10

令和元年度 中国地方治水大会

と き：令和元年10月8日(火)
 ところ：岡山市 さん太ホール

令和元年度 中国地方治水大会次第

(敬称略)

- | | | |
|-----------|--|----------------|
| ◆開会 | | |
| ◆主催者挨拶 | 岡山県知事
全国治水期成同盟会連合会会長 | 伊原木 隆太
脇 雅史 |
| ◆来賓祝辞 | 岡山県議会議長
中国地方整備局長 | 蓮岡 靖之
水谷 誠 |
| ◆来賓紹介 | | |
| ◆記念講演 | | |
| | 「災害情報を防災に生かす」
国土館大学
防災・救急救助総合研究所教授 | 山崎 登 |
| ◆座長推挙 | 岡山県土木協会会長 | 太田 昇 (真庭市長) |
| ◆治水事業概要説明 | | |
| | 「最近の治水行政について」
国土交通省水管理・国土保全局
治水課長 | 藤巻 浩之 |
| | 「最近の治水行政について」
中国地方整備局河川部長 | 岩崎 福久 |
| ◆意見発表 | | |
| | 「岡山市の事前防災について」
岡山市長 | 大森 雅夫 |
| | 「倉敷市真備町における
平成30年7月豪雨災害からの復興に向けて」
倉敷市長 | 伊東 香織 |
| ◆大会決議 | 岡山県土木協会副会長 | 黒田 晋 (玉野市長) |
| ◆次期開催県の決定 | 島根県土木部河川課長 | 星野 充孝 |
| ◆閉会 | | |

◆主催者挨拶



岡山県知事
伊原木 隆太

ご紹介いただきました岡山県知事の伊原木でございます。

令和元年度中国地方治水大会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、多数のご来賓のご臨席を賜り、また中国各県からも、大変多くの皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

さらに関係各位のお力添えによりまして、盛大に本大会を開催できましたことにつきまして、心から御礼申し上げます。

本県は、年間を通じて温暖で降水量が少ないのが特徴で、「晴れの国おかやま」と呼ばれております。

しかし、昨年の7月豪雨では、岡山県で初めてとなる大雨特別警報が発表され、7月5日から7日にかけて断続的に激しい雨が降り、県内では累計400ミリを超える記録的な大雨となりました。

これにより、一級河川高梁川水系高梁川や小田川、一級河川旭川水系砂川をはじめ、多くの河川で氾濫危険水位を超過し、観測史上最高水位を記録するとともに、堤防決壊や越水による外水氾濫に加え、内水氾濫が多くの箇所が発生したことにより、倉敷市真備町や岡山市東区をはじめ、広範囲において甚大な浸水被害をもたらすなど、これまでに経験したことのない規模の災害となりました。

また、今年9月3日の夜には岡山県新見市において、局地的な集中豪雨により、浸水や土砂崩れによる大規模な被害が発生しており、大雨による災害は、いつどこで発生してもおかしくない状況であります。

自然災害から私達の大切な生命や財産を守り、安心して暮らしていくためには、治水事業は欠くことのできない極めて重要なものであり、計画的に、そして着実に進めていかなければならないものであります。

皆様方には、この大会を契機として、今後もそれぞれの地域におかれまして、安全で安心な暮らしづくりに一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご参加の皆様方の今後ますますのご活躍を祈念申し上げ、開催県を代表してのご挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。



全国治水期成同盟会
連合会会長
脇 雅史

※挨拶は省略させていただきます。

◆来賓祝辞



岡山県議会議員
蓮岡 靖之

皆さんこんにちは。

私、ただ今議長仰せつかっております蓮岡と申しますが、一言代表してお喜びを申し上げます。

令和元年度中国地方治水大会が、このように盛大に開催されますことを、まづもってお喜び申し上げます。

本日もご臨席の皆様には、お忙しい中、岡山県にお越しくださいます誠にありがとうございます。

皆様、平素から治水行政の推進に献身的に取り組まれ、地域住民の安全で快適な生活環境の実現に多大なご尽力を賜っており、心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

先程も知事からありましたように、岡山県は穏やかな気候で風水害も比較的少ない土地であります。

また、県北の中国山地からは県南の瀬戸内海に流れる水の豊かな3大河川があり、県民の生活に多くの恩恵をもたらしてまいりました。

しかし、その反面、大雨による河川の氾濫等によって被害を受けてきたことも事実であり、お話の昨年7月の豪雨は、本県に甚大な被害をもたらし、また中国地方の各地域においても大きな被害が発生し、治水事業の重要性を改めて認識したところでございます。

我が国は急峻な地形であり、雨も多く、河川の氾濫による被害が各地で多く発生しております。

住民が安心して快適な生活を送るためには、それぞれの水系の治水事業、河川改修事業の充実強化に最善を尽くしていかなければなりません。

このような中で、中国地方の治水関係者の皆様が一堂に会され、治水事業の一層の充実発展に向けて、英知を結集されますことは、誠に意義あることであり、その成果に大きな期待を寄せるものであります。

どうか皆様には、本大会を契機として、治水事業の強力な推進にさらなるご尽力いただきますようお願いするものであります。

終わりに、本大会のご成功とご臨席の皆様のみますのご健勝とご活躍を心よりお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和元年10月8日

岡山県議会議長 蓮岡靖之

誠におめでとうございます。



中国地方整備局長
水谷 誠

皆さんこんにちは。

ただ今、ご紹介いただきました中国地方整備局長の水谷でございます。

一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

本日、中国地方治水大会が多くの皆様のご列席のもと、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

また、平素より、治水行政の推進にご支援、ご協力を賜っておりますことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ご案内のとおり、我が国の国土は自然災害に対して非常に脆弱であり、また、近年多発しているゲリラ豪雨や線状降水帯の形成等により、全国各地で毎年のように大きな水害が発生しております。

中国地方におきましても、平成30年7月豪雨による災害で、岡山県や広島県を中心に220名を超える方々の尊い命が失われ、未だ多くの方々が避難生活を余儀なくされている状況です。

国土交通省では、水防災意識社会の再構築を加速するため、施設能力を上回る洪水は必ず発生することを前提とし、いかにして人命を守るかを最重要課題と位置づけ、国土強靱化のための事前防災対策として、ハード対策の推進を図るとともに、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指し、マイハザードマップやマイタイムラインの作成・普及支援、危機管理型水位計の設置や水害リスクライン、多機関連携型タイムラインの策定、運用など、ソフト対策についても積極的に取り組んでいるところでございます。

加えて、昨年度からは防災減災国土強靱化のための3か年緊急対策による河道掘削、樹木伐採、堤防強化等の緊急対策を各水系で集中的に実施しております。

他方、昨年の7月豪雨では、これまで整備を進めてまいりました放水路やダムをはじめとする既存ストックがしっかりと整備効果を発揮し、被害の軽減に繋げることができました。

改めて事前防災対策の重要性を認識したところでございます。

これから年末に向け、令和2年度の予算編成作業も本格化してまいります。

皆様方におかれましては、安全安心な社会基盤の構築に向け、国土強靱化による事前防災対策を着実に推進するため、治水関係予算の確保、拡大、さらには、3か年緊急対策の予算措置が終わる令和3年度以降においても、治水関係予算の確保、拡大が図られますよう、地方からの切実な声をしっかり届けていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、中国地方治水大会のさらなるご発展と本日ご列席の皆様のご健勝、ご発展を祈念いたしますとともに、被災地の1日も早い復旧

復興に全力で取り組んでまいりますこととお誓いさせていただきます、私の挨拶とさせていただきます。

令和元年10月8日

中国地方整備局長 水谷 誠

本日はおめでとうございます。

◆記念講演



国土舘大学防災・救急救助総合研究所教授
山崎 登

※「災害情報を防災に生かす」というテーマで、国土舘大学防災・救急救助総合研究所教授 山崎登様よりご講演いただきました。

◆治水事業概要説明



国土交通省水管理・国土保全局治水課長
藤巻 浩之

※「最近の治水行政について」と題し、激甚化している豪雨災害、事前防災対策、治水関係予算の現状等についてご説明をいただきました。



中国地方整備局河川部長
岩崎 福久

※「最近の治水行政について」と題し、平成30年7月豪雨、真備緊急治水対策プロジェクト、治水対策の進め方等についてご説明をいただきました。

◆意見発表



岡山市長
大森 雅夫

※「岡山市の事前防災について」と題し、岡山市の地形的特性、平成30年7月豪雨による岡山市の状況、岡山市の取組について意見を発表していただきました。



倉敷市長
伊東 香織

※「倉敷市真備町における平成30年7月豪雨災害からの復興に向けて」と題し、平成30年7月豪雨における真備地区被災状況、真備地域内の河川決壊状況及び復旧状況、被災者支援の取組等について意見を発表していただきました。

◆大会決議



岡山県土木協会副会長
黒田 晋（玉野市長）

※以下の大会決議案を読み上げて提案し、承認されました。

治水事業は、国土を保全し、洪水等の被害から国民の生命と財産を守る根幹的な社会資本の整

備であり、計画的かつ着実に実施することが重要である。

平成27年9月の「関東・東北豪雨」、平成28年の台風第10号による「北海道・東北地方の豪雨」、平成29年7月の「九州北部豪雨」、昨年、西日本を中心に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」、また、今年8月の「九州北部豪雨」などにより、全国各地で大規模な水害を受けたことから、あらためて、災害に強い国土をつくり、住民の安全・安心を確保することの必要性を強く決意したところである。

中国地方においては、治水施設等の整備状況は依然として低い水準にあり、治水事業予算が大きく削減されていることは、地域住民が安全で安心して暮らせる生活の実現にとって、憂慮すべき事態である。

こうした中、近年、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しており、記録的な豪雨による災害が広域的に頻発している。平成26年には広島市において大規模な土砂災害により、甚大な被害が発生した。

また、平成28年6月には広島県福山市で堤防の決壊、溢水等による浸水被害が発生し、10月には鳥取県中部地域を中心に震度6弱の地震が発生した。

さらに、平成30年7月には岡山県倉敷市をはじめ中国地方各地で堤防の決壊、越水・溢水等による浸水被害や大規模な土砂災害が発生し、中国地方では220名を超える尊い命が失われるなど平成最悪の豪雨災害となった。

このため、激甚な災害が発生した地域への再度災害防止対策はもとより、こうした災害を未然に防止・軽減するための予防的対策が不可欠である。あわせて、自然災害に対する安全度を向上させることによりストック効果を発現させ、生産性向上を通じて地域経済の活性化を促し、地方創生を実現するためにも、国土強靱化に資する治水施設の整備を強力に推進し、地域における安心・安全な暮らしの確保・向上を図ることは重要かつ緊急の課題である。

また、高度成長期に整備された河川管理施設等の老朽化が今後急速に進むことを踏まえ、施設本来の機能を十分に発揮できるよう、適正な維持管理等による施設の長寿命化を図ることが、ますます重要となってきている。

さらに、全国に比べ少子・高齢化が進む中国地方においては、情報化の進展に対応した、水害等に対する迅速かつ的確な危機管理体制の強化を早急

に図ることが必要である。多発する自然災害から生命と財産を守り、安全で快適な生活環境を早急に実現し、さらに活力ある地域づくりを行って将来へ引き継いでいくことは、何よりも大切であり、治水施設の整備とともに、想定し得る最大クラスの洪水・高潮・津波を含めた、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保等、「水防災意識社会」の再構築を目指してハード・ソフト両面からの対応が急務となっている。

「川」は古くから地域住民の生活に深くかかわっており、地域に種々の恩恵を与え、その流域に独特の歴史や風土・文化を育んできたが、現在、人と水との関わり合いは希薄化しつつある。今一度、人と水との関わりを再構築し、自然と調和した健康な暮らしと、健全な河川環境の創出を推進していくことが重要である。

ここに、われわれは中国地方治水大会を開催し、その総意に基づき、「安全で安心して暮らせる地域づくり」を目指し、治水事業が強力かつ着実に推進されるよう、次の事項の実現について、国会並びに政府に対し強く要望する。

- 一 災害から生命・財産を守る治水対策は、国としての基本的責務であることに鑑み、水害・土砂災害を未然に防止し、国民が等しく安全を享受するための国土強靱化に資する治水事業を強力に推進するため、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策事業及び緊急自然災害防止対策事業が創設されたが、令和2年度以降についても治水事業予算の総枠確保・拡大を図ること。また、3か年対策後も必要な財源を安定的に確保し、これまで以上に強靱な国土づくりを強力かつ継続的に進めるとともに、有利な地方債制度である緊急自然災害防止対策事業債を継続するなど、必要な財源措置を講じること。
- 一 気候変動等に伴う水害の頻発・激甚化を踏まえ、地方創生を支える予防的治水対策の根幹である河川やダム等の整備を強力に推進すること。また、局地的なゲリラ豪雨に対し、河川・下水道が一体となった市街地の集中豪雨対策を推進すること。
- 一 頻発する水害、土砂災害に対する早期復旧・復

興を図るため、災害復旧及び再度災害防止を徹底するとともに、大規模災害への危機管理対応として、地方整備局が中心となって広域的・機動的な危機管理体制を充実させるなど、国が主体的な役割を積極的かつ強力に発揮すること。

- 一 沿岸部の河川においては、台風時の高潮により浸水被害が頻発しているため、高潮堤防、水門、排水機場等の高潮対策を強力に推進すること。
- 一 東日本大震災を踏まえ、津波による被害の発生を防止し、または軽減するための津波観測体制の整備充実、河川津波遡上区間や低平地における堤防・水門等の耐震化等、総合的で効果的な津波対策を推進すること。
- 一 老朽化が進む河川管理施設等について、計画的な点検、予防保全型の維持管理、施設の長寿命化対策など戦略的な維持管理・更新による既存施設の機能保全・強化を図ることが重要であり、公共施設等適正管理推進事業債や交付金の対象範囲の拡大等の支援策を強力に推進すること。
- 一 「水防災意識社会」の再構築のために、粘り強い構造の堤防整備等の危機管理型ハード対策や円滑な避難を促す警戒・避難情報の提供等のソフト対策など、ハードとソフト一体となった防災・減災対策を進めること。特に、想定最大規模の降雨に対するソフト対策の技術的支援を行うとともに、洪水時にリスクの高い危険箇所を早期整備や交付金対象範囲の拡大等の支援策を強力に推進すること。
- 一 河川や水辺の持つ多様で豊かな自然環境の保全と、地域の歴史、風土等に根ざした河川環境の形成を推進すること。特に、川の営みを活かした川づくりを基本とし、良好な水際やみお筋の保全、川の連続性の確保等を行う多自然川づくりを推進すること。また、地域住民による河川愛護活動を支援するとともに、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間を創造するための施策を充実すること。

以上 決議する。

令和元年10月8日
中国地方治水大会

◆次期開催県の決定



島根県土木部河川課長
星野 充孝

※次期開催県を島根県に決定し、島根県土木部河川課長にご挨拶いただきました。

令和元年度国土交通省地震防災訓練の実施について

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室

1. はじめに

国土交通省では、毎年、防災週間(8月30日～9月5日)にあわせて9月上旬に防災訓練を実施しています。今年(令和元年)は9月6日(金)に「令和元年度国土交通省地震防災訓練」を実施しました。

今年の訓練は、首都直下地震(震源地:東京都23区、地震規模:マグニチュード7.3、最大震度:7)を想定した政府総合防災訓練と連携し、国土交通省緊急災害対策本部の運営訓練を行いました。

また、TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)においてヘリサットやドローン、レーザー計測器等のICT技術の活用・導入を進めていますが、本訓練ではこれらの機材を用いた現地からの報告も取り入れ、訓練を実施しました。

2. 国土交通省地震防災訓練の概要

「国土交通省緊急災害対策本部運営訓練」では、発災6時間後を想定した第2回緊急災害対策本部会議(以下「緊対本部会議」という。)を開催しました。

緊対本部会議は、石井大臣、大塚副大臣、牧野副大臣(いずれも当時)にご出席頂き、事務次官等国土交通省幹部が防災センターに参集して行いました。冒頭、石井大臣から、「人命救助を最優先に、関係機関と連携して、被災者の救出・救助や支援に全力で当たること。救出・救助活動や応急復旧を支援するため、緊急輸送道路の道路啓開等、陸・海・空のあらゆる手段を講じること。国民への適時的確な情報提供を行うこと」等、今後の対応について指示がありました。



今後の対応を指示する石井国土交通大臣

本省各局等からは、道路や河川、鉄道等の所管施設における被害状況報告と対応方針について、DiMAPS(統合災害情報システム)により電子地図上に集約し、報告が行われるとともに、テレビ会議により関東地方整備局、関東運輸局から被害状況、活動方針報告が行われました。



テレビ会議による関東地方整備局からの報告



公共ブロードバンド移動通信システム(右)によりハンディカメラ(左)の撮影映像をリアルタイム配信

また、関東地方整備局からの報告の中では、TEC-FORCEによる被害状況調査として、衛星通信ヘリサットを搭載した防災ヘリコプターによる空撮映像のリアルタイム配信のほか、施設管理用のCCTVカメラが故障した場合を想定し、ドローンやKu-SAT(可搬型の衛星画像伝送装置)、公共BB(公共ブロードバンド移動通信システム)等のICTを活用した現地映像のリアルタイム配信等も実施され、被害状況に応じた道路の優先啓開ルートの設定について報告がありました。



ドローンによる上空からの被害状況調査
(国道4号線)

3. おわりに

首都直下地震が発生した場合には、一人でも多くの命を救えるよう迅速な応急活動を開始し、地震発生後72時間以内を目途に人命救助できるよう全力を尽くすことが必要です。そのためにも、発災直後から全国からの人員・物資・燃料の輸送が迅速かつ円滑に行われるよう、緊急輸送ルートを確保することが重要であり、被害状況を迅速かつ正確に把握することが求められます。

そのため、国土交通省では、本年4月から各地方整備局に災害隊策マネジメント室を新たに設置するとともに、ICT機材を取り入れた情報収集・通信訓練を実施するなどTEC-FORCEの体制・機能強化に取り組んでいます。

今後とも国民からの期待に応えられるよう、平素から災害に対する備えの充実強化及び実践的訓練を積み重ね、更なる災害対応能力の向上を図って行きたいと考えています。

令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室
防災課災害対策室
砂防部砂防計画課

去る9月20日、総理大臣官邸において、令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰式が執り行われました。

この表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として行われるものです。

今年は全体で5個人、84団体が受賞し、国土交通省水管理・国土保全局関係では、土砂災害防止、水防、緊急災害対策（TEC-FORCEによる被災自治体支援）に著しい功績があったとして、3個人、22団体が表彰されました。

(1) 土砂災害防止活動関係…1個人及び1団体

[防災体制の整備]

- ・国立大学法人 東京大学 名誉教授 鈴木 雅一
＜京都府＞
- ・那智勝浦町教育委員会＜和歌山県＞

(2) 水防活動関係…2個人及び17団体

[防災体制の整備]

- ・関東学院大学 名誉教授 宮村 忠＜東京都＞

[防災思想の普及]

- ・株式会社東北通信メンテナンス（水防専門家）
鈴木 隆三＜福島県＞

[災害現場での顕著な防災活動]

(平成30年7月豪雨)

- ・福知山市消防団＜京都府＞
- ・舞鶴市消防団長連絡協議会＜京都府＞
- ・美作市消防団＜岡山県＞
- ・郡上市消防団＜岐阜県＞
- ・岐阜市水防協会＜岐阜県＞
- ・亀岡市消防団＜京都府＞
- ・鳥取市消防団＜鳥取県＞
- ・飛騨市消防団＜岐阜県＞
- ・内子町消防団＜愛媛県＞
- ・関市消防団＜岐阜県＞
- ・下呂市消防団＜岐阜県＞

- ・広島市安佐北消防団＜広島県＞
- ・広島市安芸消防団＜広島県＞
- ・呉市消防団＜広島県＞
- ・福山市消防団＜広島県＞
- ・大洲市消防団＜愛媛県＞
- ・西予市消防団＜愛媛県＞

(3) 緊急災害対策活動関係

(TEC-FORCEによる被災自治体支援活動)…

4団体

[災害現場での顕著な防災活動]

(平成30年7月豪雨及び平成30年北海道胆振東部地震)

- ・緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）
＜国土交通省＞
- ・緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）
＜国立研究開発法人土木研究所＞
(平成30年北海道胆振東部地震)
- ・緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）
＜国立研究開発法人建築研究所＞
- ・緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）
＜国立研究開発法人海上・港湾・航空技術
研究所 港湾空港技術研究所＞

我が国は、地形、気象等の自然条件が厳しく、毎年のように豪雨や台風による洪水、土砂災害が全国各地で発生しています。

昨年は7月豪雨や度重なる台風、北海道胆振東部地震により甚大な被害が発生し、本年も8月の前線に伴う大雨、複数の台風が上陸するなどにより尊い人命と多くの資産が失われております。

このような中、今回個人で受賞された鈴木雅一氏においては、砂防学、森林水文学に関する幅広い知見を踏まえて砂防行政へ有用な提言を行うなど防災対策の推進に多大なる功績を上げられました。

また、宮村忠氏においては、災害伝承の研究を含む河川工学の第一人者として利根川水系連合総合水防演習で、平成29年までの26年もの間、通算18回にわたり延べ約32万人の来場者の前で解説者として活躍され、鈴木隆三氏においては、水防工法指導員及び水防専門家として23年間延べ150水防管

理団体へ水防工法の指導を実施するなど、水防技術の普及に多大なる功績を上げられました。

団体で受賞された那智勝浦町教育委員会においては、平成13年8月の台風11号による豪雨災害を教訓に町内の防災教育を推進し、災害対応の貴重な経験や被災体験者の体験談等を取りまとめた記録誌、啓発映像を順次制作するなど、地域の防災力向上に大きく貢献され、災害現場での顕著な防災活動として受賞された消防団等においては、日頃より積み

重ねた豊富な経験と長年培ってきた訓練成果を十分生かし、豪雨等の悪条件の下、我が身の危険を顧みず水防活動や災害対策活動を実施され、住民の人命の確保や被害の軽減、緊急排水活動等による被災地の早期復旧に向けた活動により多大なる貢献をされました。

受賞された皆様のご功績とご労苦に対し、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

功 績 概 要

(1) 土砂災害防止活動関係

個人 [防災体制の整備]

氏 名	すざき まさかず 鈴木 雅一
職 業	国立大学法人東京大学名誉教授
功績の概要	<p>同氏は、砂防学及び森林水文学に多数の研究業績を上げてこられた。特に、土砂災害発生に関する降雨指標の研究の草分け的な存在であり、タンクモデル、実効雨量を用いた土砂災害発生危険雨量や、がけ崩れ発生と降雨の関係に関する研究成果は、土砂災害警戒避難の指標検討に活用され、発表後30年以上経過した現在でも多くの研究論文に引用されている。</p> <p>また、国土交通省が設置した「土砂災害対策懇談会」や「河川砂防技術基準検討委員会」の委員を務められたほか、平成25年10月に伊豆大島で発生した土砂災害では、東京都が設置した「伊豆大島土砂災害対策検討委員会」や「伊豆大島火山砂防基本計画検討委員会」の委員長を務められ、多くの技術的な助言やとりまとめを行った。</p> <p>学術関係では、砂防学会会長等の要職を歴任され、「深層崩壊」を初めて定義し、その対応策等について砂防学会として提言を行うなど、その評価は極めて高い。</p> <p>このように、同氏は砂防に関する学術研究に献身するとともに、その成果を踏まえ砂防行政へ有用な提言を行うなど、防災体制の整備に多大な貢献をしてきた。</p>

団体 [防災体制の整備]

名 称	那智勝浦町教育委員会
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町
代表者	教育長 岡田 秀洋
功績の概要	<p>同委員会は、平成13年8月の台風11号による豪雨災害を教訓に、平成14年より町内の小学校1校を皮切りに防災学習を開始した。その後、平成17年以降は、有識者を講師とした町民向けの防災講習会を開始した。さらに、甚大な被害をもたらした平成23年の紀伊半島大水害後には防災教育の体制を強化し、町内の各小中学校で防災学習を実施するなど、同委員会が中心となり、内容の充実を図り、町内の防災教育を推進している。</p> <p>また、平成23年の紀伊半島大水害後、災害対応の貴重な経験や被災体験者の体験談等を取りまとめた記録誌、啓発映像（大人向け、子供向け）を順次制作し、町内で開催されるイベントで公開・上映し、防災学習などに毎年活用している。なお、和歌山県が設置した土砂災害啓発センターでは、これらの資料を活用し、地域住民や県内外の児童・生徒の防災学習、観光客への災害実態の普及啓発を行っている。</p> <p>このように、同委員会は外部有識者を講師とした防災講習会、児童・生徒・一般住民を対象とした防災学習会を積極的に開催し、地域の防災力向上に大きく貢献してきた。</p>

(2) 水防活動関係

個人 [防災体制の整備]

氏名	みやむら ただし 宮村 忠
職業	関東学院大学名誉教授
功績の概要	平成4年から平成29年までの26年間、通算18回にわたり、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県にて開催された利根川水系連合・総合水防演習において、解説者として河川、流域の特性や水害の歴史及び水防工法の解説を行うとともに、住民を対象とした防災講演会において、水防の重要性を含む地域防災の意識の浸透に資する講演を行い、水防技術の向上、伝承、普及に多大な貢献をした。

個人 [防災思想の普及]

氏名	すずき りゅうぞう 鈴木 隆三
職業	株式会社東北通信メンテナンス
功績の概要	平成7年以降、水防工法指導員として、また、平成27年以降は水防専門家として、23年間にわたり、福島県を中心に毎年実施される阿賀川の水防演習、福島県水防訓練において水防工法の指導を行うとともに、水防団に対し水防工法の指導を行っている。これまで指導を行った団体は延べ150団体を数え、水防技術の向上、伝承、普及に多大な貢献をした。

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

(平成30年7月豪雨)

名称	福知山市消防団
所在地	京都府福知山市
代表者	団長 池澤 徹
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から7日にかけて、延べ1,681名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民の避難誘導、住民の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名称	舞鶴市消防団長連絡協議会
所在地	京都府舞鶴市
代表者	会長 瀬野 和美
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月4日から10日にかけて、延べ726名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	美作市消防団
所在地	岡山県美作市
代表者	団長 永井 秀一
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から7日にかけて、延べ2,009名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民8名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	郡上市消防団
所在地	岐阜県郡上市
代表者	団長 山田 悟
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年6月29日から7月15日にかけて、延べ3,530名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民の避難誘導を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	岐阜市水防協会
所在地	岐阜県岐阜市
代表者	会長 戸本 敏夫
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から9日にかけて、延べ2,020名が月の輪工、シート張り工及び釜段工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動、陸閘閉鎖を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	亀岡市消防団
所在地	京都府亀岡市
代表者	団長 中井 和寿
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から8日にかけて、延べ1,062名が土のう積み工、シート張り工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	鳥取市消防団
所在地	鳥取県鳥取市
代表者	団長 相良 正人
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から8日にかけて、延べ1,423名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	飛驒市消防団
所在地	岐阜県飛驒市
代表者	団長 蒲 義博
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から8日にかけて、延べ1,336名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民の避難誘導を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	内子町消防団
所在地	愛媛県喜多郡内子町
代表者	団長 篠崎 耕太郎
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月6日から7日にかけて、延べ1,046名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、住民の避難誘導を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	関市消防団
所在地	岐阜県関市
代表者	団長 多田 壽夫
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から16日にかけて、延べ1,686名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、水門閉鎖、住民の避難誘導、住民7名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	下呂市消防団
所在地	岐阜県下呂市
代表者	団長 無笹 聡
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年6月29日から7月8日にかけて、延べ1,757名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	広島市安佐北消防団
所在地	広島県広島市安佐北区
代表者	団長 小田 重男
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月5日から7日にかけて、延べ726名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民24名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	広島市安芸消防団
所在地	広島県安芸郡海田町
代表者	団長 小鷹狩 修
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月6日から8日にかけて、延べ302名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民の避難誘導、住民1名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	呉市消防団
所在地	広島県呉市
代表者	団長 上瀬 雅晴
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月6日から9月30日にかけて、延べ917名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、住民約100名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	福山市消防団
所在地	広島県福山市
代表者	団長 延近 敬弘
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月6日から12日にかけて、延べ6,855名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、住民42名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	大洲市消防団
所在地	愛媛県大洲市
代表者	団長 矢野 正祥
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月6日から7日にかけて、延べ1,385名が月の輪工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、樋門操作、住民の避難誘導、住民380名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	西予市消防団
所在地	愛媛県西予市
代表者	団長 廣瀬 吉孝
功績の概要	平成30年7月豪雨に際し、平成30年7月6日から7日にかけて、延べ1,557名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、住民47名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

(3) 緊急災害対策活動関係

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

(平成30年7月豪雨及び平成30年北海道胆振東部地震)

名 称	国土交通省緊急災害対策派遣隊
所在地	東京都千代田区霞が関
代表者	隊長 神宮 祥司
功績の概要	<p>平成30年7月豪雨に際し、自治体所管施設の被災状況調査を実施し、激甚災害指定の見込み公表の早期化に貢献するとともに、通行止め箇所道路啓開や応急復旧、浸水解消に向けた排水作業、流出土砂等の撤去など全力で地方公共団体への支援を実施した。</p> <p>また、平成30年北海道胆振東部地震に際し、自治体所管施設の被災状況調査を実施し、激甚災害指定の見込み公表の早期化に貢献するとともに、厚真川の河道閉塞箇所の緊急土砂撤去や土砂災害危険箇所の緊急点検、道路陥没や土砂崩落等によって通行不能となった道路啓開や応急復旧、被災建物の応急危険度判定など、全力で被災自治体を支援した。</p> <p>国土交通省緊急災害対策派遣隊は、自治体所管施設の被害状況調査等を実施し、その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることにつながった。</p>

名 称	国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊
所在地	茨城県つくば市
代表者	隊長 石井 靖雄
功績の概要	<p>国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊は、平成30年7月豪雨、同年北海道胆振東部地震に対応するために、発災直後から専門家を派遣し、土砂崩れの発生源調査および二次災害防止に係る高度な技術指導を実施した。その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることにつながった。</p>

(平成30年北海道胆振東部地震)

名 称	国立研究開発法人建築研究所緊急災害対策派遣隊
所在地	茨城県つくば市
代表者	隊長 植本 敬大
功績の概要	<p>国立研究開発法人建築研究所緊急災害対策派遣隊は、建築物を中心とした被害状況を把握し必要な対策等に活かすため、国土技術政策総合研究所と合同で高度な知見を有する専門家を派遣し、木造建築物、鉄筋コンクリート造等建築物、地盤について調査を実施した。</p> <p>現地調査を受けて、平成30年北海道胆振東部地震の特性や倒壊・大きな変形を生じた建築物の特徴などを取りまとめた調査報告を迅速に公表したほか、むかわ町役場庁舎の被災箇所について、安全対策に係る助言をするなど、自治体における早期の復旧・復興に関する計画策定や対策工法の検討に資する技術的支援を実施するなど地域の防災力向上や迅速な復興に大きく貢献した。</p>

名 称	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所緊急災害対策派遣隊
所在地	神奈川県横須賀市
代表者	隊長 栗山 善昭
功績の概要	<p>国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所の緊急災害対策派遣隊は、地震発生翌日の平成30年9月7日早朝に苫小牧港へ派遣された。これは、1995年兵庫県南部地震の際の神戸港の液状化被害をはじめ、国内外での災害調査の経験を有し、大型模型実験による被害メカニズムの解明や対策工法の開発などの研究実績、復旧工事への助言を行ってきた豊富な経験、知見を基に、苫小牧港の港湾施設の点検・被災調査、被災施設の復旧等に関する高度な技術指導を実施したものである。</p> <p>特に、液状化による広域の噴砂・陥没・沈下・隆起メカニズムを明らかにすると共に、同調査結果に基づき今後の復旧対策・管理指針を速やかに提示した功績は大きい。</p> <p>従って、その活動は、苫小牧港国際コンテナターミナルの早期復旧に大きく貢献した。</p>



御法川国土交通副大臣出席



受賞者の皆様



受賞者記念撮影